

白峯神宮奉納

場所 白 峯 神 宮 神 樂 殿
日時 令和2年5月5日(火)午前10時

主催 白 峯 神 宮
宮 司 粟 田 口 幹 男
共催 日 本 古 武 道 振 興 会
会 長 小 笠 原 清 忠

白峯神宮奉納演武

参加流派 23 参加人数 86 名

- 1 小笠原流弓馬術礼法 (小笠原 清忠)
- 2 鞍馬流劍術 (柴田 章雄)
- 3 無想神傳流拔刀術 (小川 武)
- 4 夢想神伝流居合術 (高橋 次秀)
- 5 淺山一傳流兵法 (関 展秀)
- 6 無雙神傳英信流拔刀兵法 (森本 邦生)
- 7 小野派一刀流劍術 (鈴木 ゆき子)
- 8 細川家伝統兵法二天一流 (宮田 和宏)
- 9 尾張貫流槍術 柳生新陰流兵法 (加藤伊三男)
- 10 直心影流薙刀術 (園部 正美)
- 11 神道無念流劍術 (小川 武)
- 12 澁川一流柔術 (森本 邦生)
- 13 神夢想林崎流居合術 (鈴木 ゆき子)
- 14 戸山流拔刀道 (中村 朋子)
- 15 天道流薙刀術 (木村 恭子)
- 16 天真正伝香取神道流兵法 (飯篠 快貞)
- 17 夢想神伝居合重信流詰合 (津村 恵治)
- 18 立身流 (加藤 紘)
- 19 直元流大長刀術 (鈴木 ゆき子)
- 20 関口流新心流柔術 (関口 芳夫)
- 21 無双直伝英信流居合兵法 (石本 一平)
- 22 柳生心眼流體術 (梶塚 靖司)
- 23 琉球古武術 (井上 貴勝)

〈流儀解説〉

井上 貴勝 吉田 実

令和2年(2020)5月5日

白峯神宮 奉納演武順序

一、小笠原流弓馬術札法 (小笠原長清)

小笠原清忠 (神奈川県)

二、鞍馬流劍術 (大野 将監)

柴田章雄 (東京都)

三、無想神傳流拔刀術 (林崎甚助重信)

小川武 (東京都)

四、夢想神伝流居合術 (林崎甚助重信)

高橋次秀 (東京都)

小川 萩川 山崎 掛谷 川成 山崎 川成 山崎 川成 山崎 川成

柴田章雄 柴田章雄 柴田章雄 柴田章雄 柴田章雄 柴田章雄 柴田章雄 柴田章雄

高橋次秀 高橋次秀 高橋次秀 高橋次秀 高橋次秀 高橋次秀 高橋次秀 高橋次秀

五、淺山一傳流兵法（淺山一傳齋重晨）

清水航

六、無雙神傳英信流拔刀兵法（林崎甚助重信）

森本邦生（広島県）

七、小野派一刀流劍術（伊藤一刀齋景久）

鈴木ゆき子（東京都）

八、細川家伝統兵法二天一流（新免武藏玄信）

宮田和宏（福岡県）
宮田和宏
長富昭長
メルハヤシ

鈴木木 鈴木木 鈴木木 鈴木木 後藤木 酒井藤 茂木 宮内 大正 眞理香 百合香 一地章典建

九、尾張貫流槍術 柳生新陰流兵法（津田權之丞平信之・柳生兵庫助利藏）

加藤 澤渡 藤 田 伊三男（愛知県）
横 渡 地 浩 男
恭 平 紀
健

十、直心影流薙刀術（山田平左衛門藤原光徳）

園 部 正 美（奈良県）
大井 上 三子
島谷 林 典克 栄子
田口 美子

十一、神道無念流剣術（福井兵右衛門嘉平）

小 川 武（東京都）
掛山 齊萩 川 昭武
土屋 藤崎 成 怜正 彦子 則文
政 昭

十二、澁川一流柔術（首藤蔵之進満時）

森 本 邦 生（広島県）
林 本 邦 生
大 邦 介

十三、神夢想林崎流居合術（北條甚助林崎平重信）

十四、戸山流拔刀道（中村泰三郎）

十五、天道流薙刀術（齋藤判官伝鬼房）

十六、天真正伝香取神道流兵法（飯篠長威齊家直）

鈴木 木 ちよき子（東京都）

鈴 後 酒 茂 宮
木 藤 井 木 内
典 正 大
章 地 一

中 村 朋 子（神奈川県）
高 野 弘 光
阿 部 英 夫

木 村 恭 子（東京都）
玉 置 捷 子
井 上 弼 江 子
吉 富 美 美 津 子
山 橋 順 美 子
貴 島

飯 篠 快 貞（千葉県）
京 増 重 利
荒 野 祥 司
櫻 井 俊 也

十七、夢想神伝居合重信流詰合（林崎甚助重信）

十八、立身流（立身三京）

十九、直元流大長刀術（天真正笠并藤左衛門尉）

二十、関口流新心流柔術（関口弥六右右衛門氏心）

本大関山	関	宮鈴	鈴	江加加	加	齋関安津	津
間木口中	口	内木	木	尻藤藤	藤	藤生村	村
翔貴正	芳	ゆき子	ゆき子	裕		展和惠	惠
大裕郎	夫	一子	子	介敦紘	紘	勝秀之治	治
	（和歌山県）		（東京都）		（千葉県）		（埼玉県）

二十一、無双直伝英信流居合兵法（林崎甚助重信）

二十二、柳生心眼流體術（荒木又右衛門）

二十三、琉球古武術

石本一平
（兵庫縣）

梶塚靖司
（栃木縣）

井上貴勝
（東京都）

井藤藤向道山恵吉井
上田田井正口下田上
俊義千宣泰量浄 貴

二則種尊弘也尊実勝

古武道振興会沿革

日本古武道振興会は、昭和十年四月一日、松本学貴族院議員、小山松吉司法大臣、二荒芳徳伯爵等、当時の有識者と古武道各流派代表者が集まり結成されました。日本の誇るべき伝統文化財である古武道の衰微を憂い、その保存と振興を図ることを目的としました。昭和十五年四月四日には、財団法人の許可を受け多彩な活動を展開し大きな成果をあげてまいりましたが、終戦に伴う米軍占領下という事情もあり、財団法人を自主解散し、現在にいたる任意団体になりました。古武道振興の主旨は、日本の誇るべき文化財である日本武術の神髄を体得錬磨し、青少年に普及することにあります。「武は戈を止める」と申されております如く日常の武術修練によつて得た心技体の実力をあくまで表面に示さず謙虚に余裕をもつて自己及周囲を洞察する心と体を養うことにあります。その武の心を心として各流派宗家、師範を中心に毎年十一月二日の明治神宮の演武大会、伊勢神宮（式年遷宮年）、靖国神社、下鴨神社、白峯神宮、熱田神宮、浅草神社、等戦前に引続き奉納演武が恒例となっております。

日本古武道振興会としては、活動の一環として古武道大会開催の他、流儀解説の普及にも努めてまいりました。昭和三十七年発行の機関誌「真鋭」第二号で各流儀の流祖伝系、演武者の経歴を掲載したのをはじめ、昭和四十五年には「真鋭」別冊で同じく流儀解説を紹介、その後本格的な流儀解説書を創立四十六周年（昭和五十六年）に発行し、創立五十周年（昭和六十年）からは五年ごとに創立記念古武道大会を開催すると同時に、流儀解説書を改訂刊行してまいりました。平成二十七年七月十九日（日）には、創立八十周年記念大会を中野サンプラザホールにて開催致しました。古武道の益々の発展と隆盛を期して参ります。



日本古武道振興会

事務局 〒160-0016 東京都新宿区信濃町11-12 柴田章雄

ホームページ <http://kobushin.jp/>
メール kobudoushinkoukai@yahoo.co.jp